

第13回アセアン・プラス3経済関係閣僚（8月26日於ダナン）：共同声明
（仮訳）

1. 第13回アセアン経済関係閣僚と中国、日本及び韓国との協議は、2010年8月26日にベトナム・ダナン市で行われた。今次協議は、ベトナムのヴー・ファイ・ホアン商工大臣、中国の陳徳銘商務部長、日本の直嶋正行経済産業大臣及び韓国のキム・ジョンフン通商交渉本部長が共同議長を務めた。
2. 閣僚は、地域及び世界の経済の動向、特にアセアンの+3各国との貿易に重大な影響を与えた世界経済危機の情勢について意見交換を行った。閣僚は、世界的な経済不況にもかかわらず、アセアンの+3各国との貿易は堅調であることを歓迎した。これらの貿易額は、2008年の4,895億米ドルから、2009年4,138億米ドルへとわずかに15%しか減少しておらず、昨年のASEAN総貿易額に占める割合は27%であった。閣僚は、2009年のASEAN+3の総貿易額は、減少しているにもかかわらず、2007年の世界経済危機前の4,054億米ドルよりも高いことに留意した。
3. 閣僚は、世界経済危機及び世界直接投資額の減少にもかかわらず、+3各国からASEANへの総直接投資額は、2008年の84億米ドルから2009年82億米ドルへとわずかに1.3%の減少であり、引き続き堅調であったことに留意した。
4. 閣僚は、アセアン+3プロセスは、ドライビングフォースとしてのアセアンとともに東アジアコミュニティを構築する長期的なゴールに向けての主要な動力車であるとの首脳のコミットメントを想起した。

東アジア自由貿易地域

5. 閣僚は、東アジア自由貿易地域（EAFTA）及び東アジア包括的経済連携（CEPEA）について、並行してそれぞれの研究における勧告を検討することを課されている4つのASEANプラスのワーキング・グループのプログレスレポートを歓迎した。閣僚は、原産地及び関税分類に関する2つのワーキング・グループに、2010年9月にアセアンのFTAパートナーが参加することとなったことに勇気づけられた。閣僚は、その他のワーキンググループ（税関手続及び経済協力）についても、できる限り早期にアセアンのFTAパートナーで議論を開始できるよう、議論を進めることを促した。閣僚は、東アジア経済統合のプロセスにおけるアセアン・セントラリティの重要性を強調した。閣僚は、第13回アセアン+3サミットにおいて、アセアンの4つのワーキング・グループのプログレスレポートを首脳に提出することに合意した。
6. 閣僚は、中国の貿易円滑化に関するコンセプトペーパー、すなわち、アセアン+3各

国の貿易円滑化のロードマップを歓迎し、意見交換を行った。閣僚は、提案されたロードマップの大半の内容は、2009年11月24-25日に、中国・長春で開催されたアセアンと中国、日本及び韓国間の貿易円滑化ワークショップによるものであることに留意した。閣僚は、ワークショップのホストである中国に感謝の意を表明し、各国がこの種の努力を行うことを奨励した。

7. 閣僚は、アセアン+3間の貿易円滑化の改善の重要性を再確認した。閣僚は、アセアンと対話国のワーキンググループにおける統合作業の中で評価し、考慮するため中国の提案を参照するとのアセアン経済大臣の決定に留意した。

アセアン+3の世界経済・金融危機に対応する協力

8. 閣僚は、経済協力プロジェクトの実施の進捗状況に留意するとともに、2010年11月の雲南省昆明での「アセアン+3域内の貿易及び投資の世界金融危機の効果とその対策に関するワークショップ」を行うとする中国の提案を歓迎した。このワークショップは、金融危機に対応するための対策の研究を行うとともに、どのように地域協力の強化し、国内経済の安定を向上させるかなどに焦点をあてる。

WTO

9. 閣僚は、WTOのドーハ・ラウンド交渉の現状について、意見交換を行った。閣僚は、経済成長及び開発を維持し、並びに経済の安定成長を促進する上で多国間貿易システムが重要であること再確認した。閣僚は、できる限り早期に、バランスを維持しつつ志の高い結果となるようなWTOドーハ・ラウンドの妥結に向けて積極的な貢献を行うとのコミットメントを改めて強調した。閣僚は、可及的速やかなラオスのWTO加盟への支援を改めて強調した。

APEC

10. 閣僚は、2010年6月5-6日の札幌でのAPEC貿易大臣会合及び2010年8月7-8日の別府でのAPEC経済成長戦略ハイレベル会合の結果を歓迎した。閣僚は、2010年11月10-14日に横浜での開催が予定されているAPEC首脳及び閣僚会合への意義ある進展への期待を表明した。